

柏の景気情報（平成19年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成19年10月分）

○ 調査期間 : 平成19年10月22日 ~ 10月25日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	71	71.7%
建設	17	13	76.5%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	39	27	69.2%
サービス	20	13	65.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成19年10月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは再び悪化、仕入単価では製造業が調査以来初めてのマイナス70台 ▶

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.5(前月水準▲20.8)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同▲21.4)、製造業▲5.5(同▲5.8)である。変らない業種は、卸小売業▲40.7(同▲40.7)である。マイナス幅が拡大した業種はサービス業▲15.3(同±0.0)である。

【建設業】では、「民間物件も出ているが、予算と積算との差異がほとんどである」(土木建築工事)、「学校関係の工事が完成し、人の動きは落ち着いてきたが、採算的には厳しい」(板金工事)との声や、「ガソリンなど燃料の値上げで経費が増大。お客に経費の値上げは請求しづらい」(土木工事)といった仕入コスト上昇の声が寄せられた。また、「建築確認・構造計算見直し等で発注時期及び工期に著しく遅れが生じている」(土木建築工事)といった建築確認申請の影響に関する声が寄せられている。

【製造業】では、「業界全体の売上は前年を若干上回る見込み」(飲料製造)、「下期のスタート月のせい、今は非常に好調に受注が推移」(電子部品製造)との好調の声も寄せられているが、「暖冬のため、カイロへの影響が少なからずあるが、他で何とかカバーしている状況」(鉄粉製造)との声や、「材料は高いが、製品の値上げを交渉。苦戦中」(紙製容器製造)といった仕入コストの声が寄せられている。その他、「鋳物外注加工先を探しているが、中々短納期対応してくれるところが少ない」(包装・組立機械製造)との声や、「エレベーター・エスカレーター事故及び大手メーカー鋼材強度不適また、建築基準法の強化・変更により確認申請が遅滞し、現場着工が遅れている」(昇降機設計製造)といった新規外注・建築確認申請の影響に関する声が寄せられている。

【卸小売業】では、「9月度は天候の影響を受け、百貨店の主力商品であるファッション系の商品分野の売上は大きく前年を下回ったが、10月度はその反動もあり、堅調に推移」(百貨店)、「先月末から気温が低下したことから、主力の婦人服を中心に秋物衣料が活発化、好調な出足となり、5日には2店舗がオープンし、売上高は更に伸びをみせた」(各種商品小売)との秋冬商品好調の声や、「売上は前年同月と変わらず、客数若干増加」(コンビニエンスストア)、「店内改装中だが、売上不変。11月下旬に1階ベーカリーショップがオープン」(総合スーパー)といった声も寄せられている。しかし、「店頭の商品は冬物に変わったが、陽気が暖かく売れていない。温度ばかりでなく、TX沿線の大型SCの影響があるのかもしれない」(各種商品小売)といった大型店の影響の声や、「パート従業員の確保が難しくなっている」(各種商品小売)との人手不足の声が寄せられている。また、「小麦粉等の材料値上げが大きい」(菓子製造小売)といった仕入コスト上昇の声も多く寄せられた。その他、「月初からゆったりとしたペースで推移。特に良くもなく、ひどく悪くもない状況。年末を迎えることで好転に期待」(食料卸売)といった年末商戦に関する声や、「青果物では酷暑の影響で、野菜は入荷減・単価高の傾向。販売状況は低迷しているが、11月上旬より近郊野菜の出回り増で安定も予想される。果実は、みかん・りんごを中心に生産が増加」(青果卸売)とのコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「宴会増加だが、会議・展示会不安。Jリーグ宿泊あり」(ホテル)、「連休の中日はヒマでした。運動会の打ち上げで利用して下さるお客様が多く、ディナータイムの団体予約が増えた」(レストラン)との声が寄せられている。また、「11月20日、千葉県理容フェスティバル」(理容)といったイベント開催のコメントが寄せられている。

○仕入・コスト上昇

引き続き各業種から、「材料(石油製品)が上がり気味」(塗装工事)、「小麦粉等の材料値上げが大きい」(菓子製造小売)といった仕入コスト上昇の声や、「ガソリンなど燃料の値上げで経費が増大。お客に経費の値上げは請求しづらい」(土木工事)、「原油価格の再上昇基調が始まり、LPガスも毎月過去最高値に達している。据え置けた価格を12月から転嫁せざるをえない状況」(燃料小売)といった仕入・コスト上昇に伴う価格転嫁の声の他、「学生衣料全般値上がり。来春文具、事務用品、学習帳も値上げで仕入商品の手当て、運転資金等が難しい」(学生衣料)、「地金高の影響か、ユーザーに買い控えの気配あり」(非鉄金属・合金圧延)など運転資金、買い控えといった影響の声や、「仕入コストを引き下げるための仕入のルートの改善が必要である」(土木建築工事)といった仕入ルートの改善を望むコメントが寄せられている。

○秋冬商品・年末商戦

卸小売業から、「9月度は天候の影響を受け、百貨店の主力商品であるファッション系の商品分野の売上は大きく前年を下回ったが、10月度はその反動もあり、堅調に推移」(百貨店)、「店頭の商品は冬物に変わったが、陽気が暖かく売れていない。温度ばかりでなく、TX沿線の大型SCの影響があるのかもしれない」(各種商品小売)といった秋冬商品の声や、「年末を迎えることで好転に期待」(食料卸売)、「今後のお歳暮や、地域の活性化のため、地の利を生かした販売に全力投球していく」(青果卸売)、「年末に向けて、年賀状印刷やギフト等の需要があり、売上は増加する見込み」(コンビニエンスストア)といった年末商戦に期待するコメントが多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲19.4	▲26.6	±0.0	▲32.1	▲9.0
6月	▲21.7	▲21.4	▲5.5	▲32.0	▲25.0
7月	▲27.1	▲38.4	▲5.5	▲34.6	▲30.7
8月	▲31.9	▲35.7	▲5.5	▲44.4	▲38.4
9月	▲20.8	▲21.4	▲5.8	▲40.7	±0.0
10月	▲22.5	▲15.3	▲5.5	▲40.7	▲15.3
見通し	▲12.6	▲15.3	△5.5	▲22.2	▲15.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.2	△ 1.4	▲ 25.3	▲ 16.9	▲ 50.7	▲ 47.8	△ 12.6	△ 14.0
建設	▲ 38.4	▲ 7.6	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 69.2	▲ 46.1	±0.0	▲ 7.6
製造	±0.0	±0.0	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 72.2	▲ 66.6	△ 27.7	△ 33.3
卸・小売	▲ 11.1	△ 11.1	▲ 33.3	▲ 18.5	▲ 40.7	▲ 44.4	▲ 3.7	±0.0
サービス	±0.0	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 23.0	▲ 38.4	△ 38.4	△ 38.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.5	▲ 12.6	▲ 11.2	▲ 9.8
建設	▲ 15.3	▲ 15.3	±0.0	±0.0
製造	▲ 5.5	△ 5.5	▲ 5.5	▲ 5.5
卸・小売	▲ 40.7	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 14.8
サービス	▲ 15.3	▲ 15.3	▲ 7.6	▲ 23.0

【平成19年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.5(前月水準▲20.8)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大した。

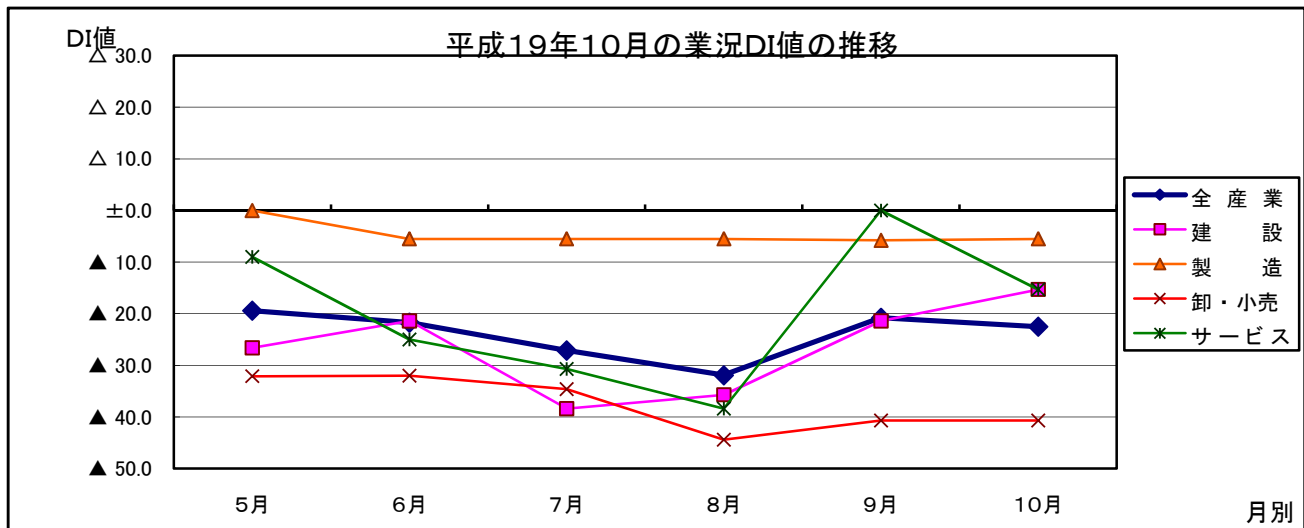
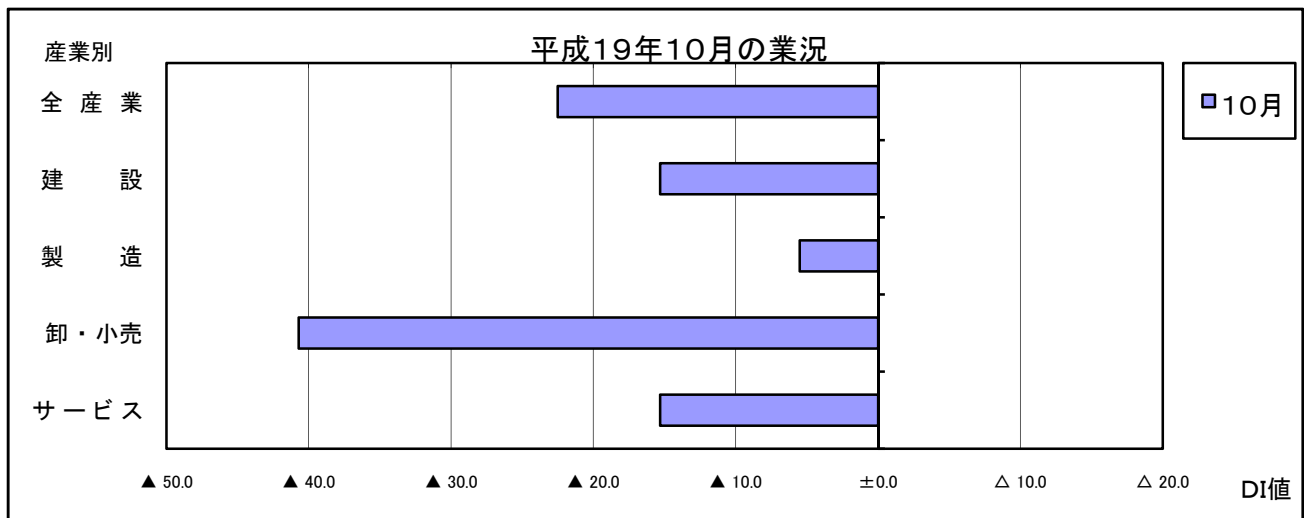
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.3(同▲21.4)、製造業▲5.5(同▲5.8)である。変らない業種は、卸小売業▲40.7(同▲40.7)である。マイナス幅が拡大した業種はサービス業▲15.3(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が△2.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22.2(同▲33.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.5(同△5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.3(同▲7.1)、建設業▲15.3(同▲14.2)である。

平成19年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲19.4	▲21.7	▲27.1	▲31.9	▲20.8	▲22.5	▲12.6(▲15.2)
建設	▲26.6	▲21.4	▲38.4	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲15.3(▲14.2)
製造	±0.0	▲5.5	▲5.5	▲5.5	▲5.8	▲5.5	△5.5(△5.8)
卸・小売	▲32.1	▲32.0	▲34.6	▲44.4	▲40.7	▲40.7	▲22.2(▲33.3)
サービス	▲9.0	▲25.0	▲30.7	▲38.4	±0.0	▲15.3	▲15.3(▲7.1)



【平成19年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.2(前月水準▲11.1)となり、マイナス幅が▲0.1ポイント拡大した。

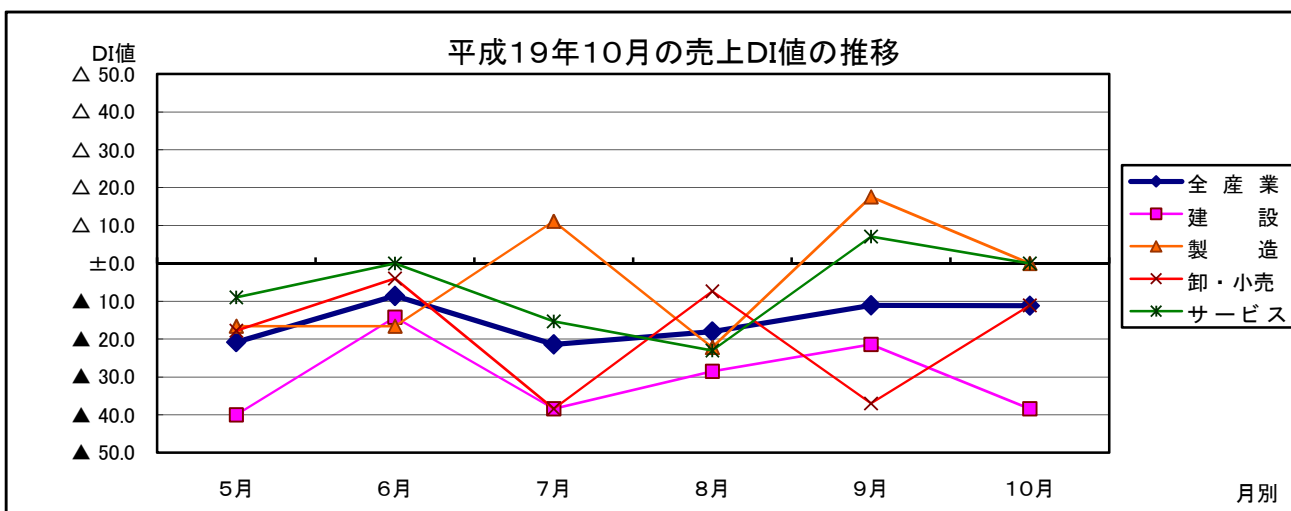
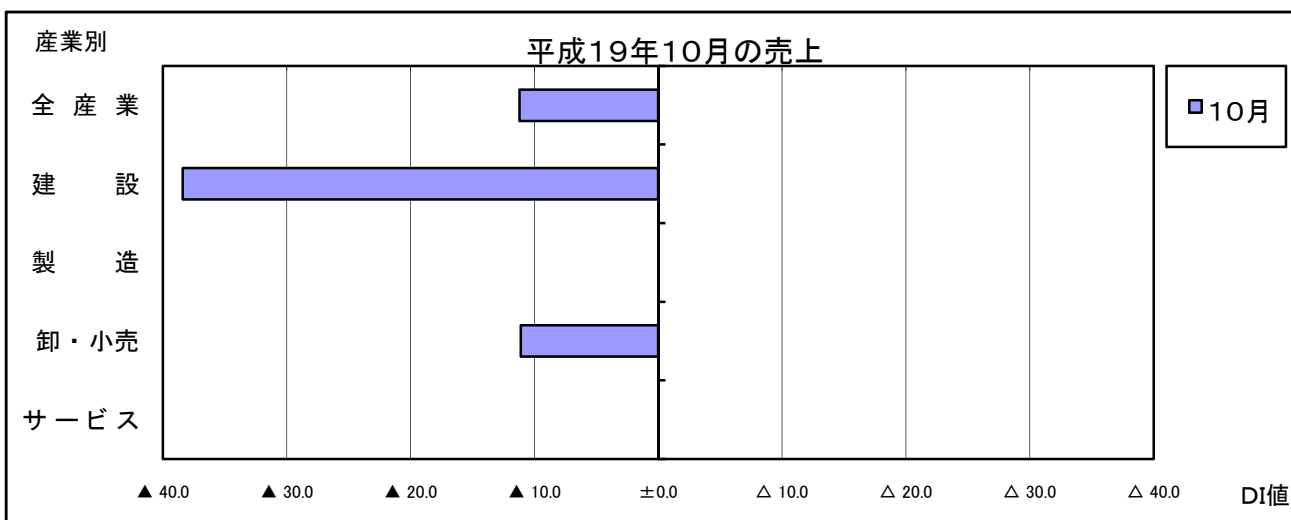
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲11.1(同▲37.0)であり、マイナス幅が△25.9ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同△17.6)、サービス業±0.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲38.4(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△1.4(前月水準±0.0)となり、プラス幅△1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△11.1(同▲7.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△23.5)であり、プラス幅が△23.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲7.6(同▲7.1)、サービス業▲7.6(同▲7.1)である。

平成19年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	▲20.8	▲8.6	▲21.4	▲18.0	▲11.1	▲11.2	△1.4(±0.0)
建設	▲40.0	▲14.2	▲38.4	▲28.5	▲21.4	▲38.4	▲7.6(▲7.1)
製造	▲16.6	▲16.6	△11.1	▲22.2	△17.6	±0.0	±0.0(△23.5)
卸・小売	▲17.8	▲4.0	▲38.4	▲7.4	▲37.0	▲11.1	△11.1(▲7.4)
サービス	▲9.0	±0.0	▲15.3	▲23.0	△7.1	±0.0	▲7.6(▲7.1)



【平成19年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.3(前月水準▲31.9)となり、マイナス幅が△6.6ポイント縮小した。

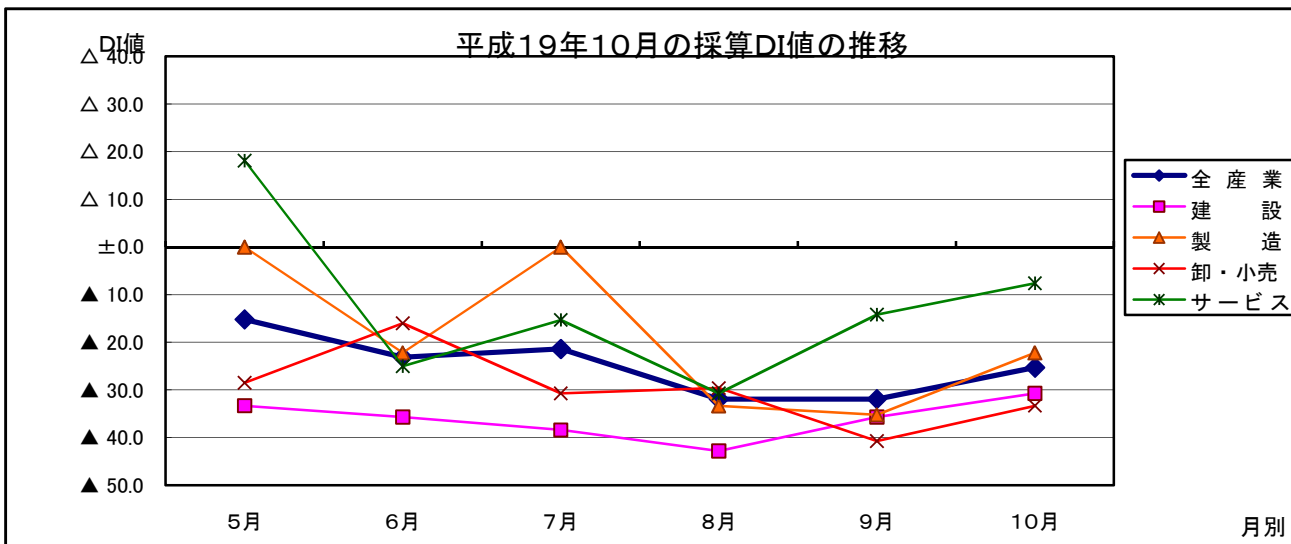
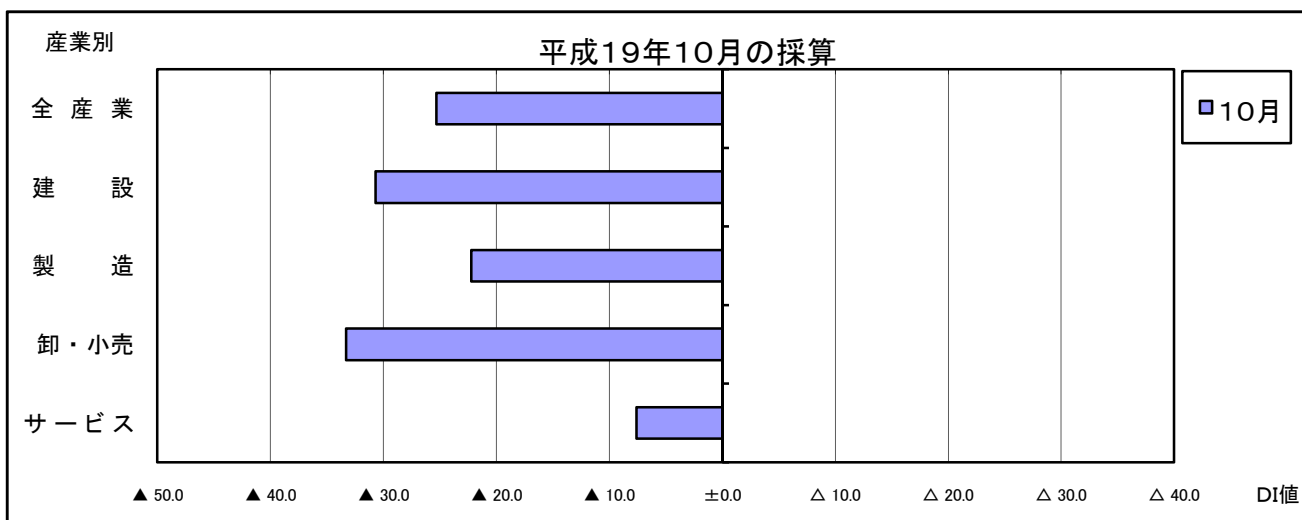
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲35.2)、卸小売業▲33.3(同▲40.7)、サービス業▲7.6(同▲14.2)、建設業▲30.7(同▲35.7)であり、全業種でマイナス幅が縮小した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.9(前月水準▲18.0)となり、マイナス幅が△1.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲18.5(同▲25.9)、サービス業▲7.6(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲11.7)、建設業▲23.0(同▲14.2)である。

平成19年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月 (10月～12月)
全産業	▲ 15.2	▲ 23.1	▲ 21.4	▲ 31.9	▲ 31.9	▲ 25.3	▲ 16.9 (▲ 18.0)
建設	▲ 33.3	▲ 35.7	▲ 38.4	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 30.7	▲ 23.0 (▲ 14.2)
製造	±0.0	▲ 22.2	±0.0	▲ 33.3	▲ 35.2	▲ 22.2	▲ 22.2 (▲ 11.7)
卸・小売	▲ 28.5	▲ 16.0	▲ 30.7	▲ 29.6	▲ 40.7	▲ 33.3	▲ 18.5 (▲ 25.9)
サービス	△ 18.1	▲ 25.0	▲ 15.3	▲ 30.7	▲ 14.2	▲ 7.6	▲ 7.6 (▲ 14.2)



【平成19年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.7(前月水準▲47.2)となり、マイナス幅が▲3.5ポイント拡大し、平成14年6月からの調査以来、過去最低のポイントとなった。

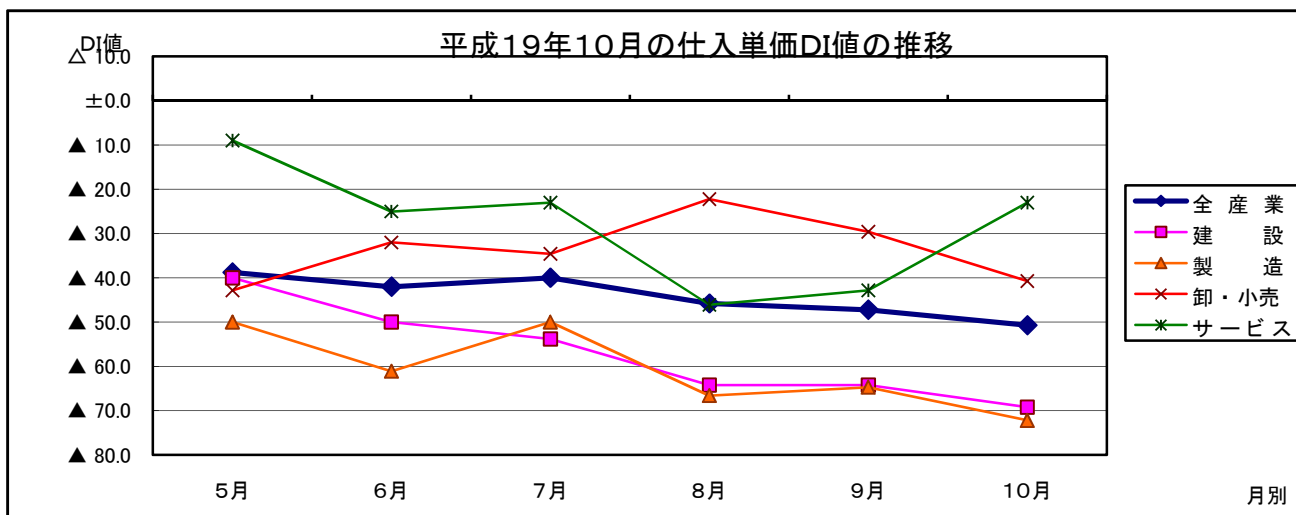
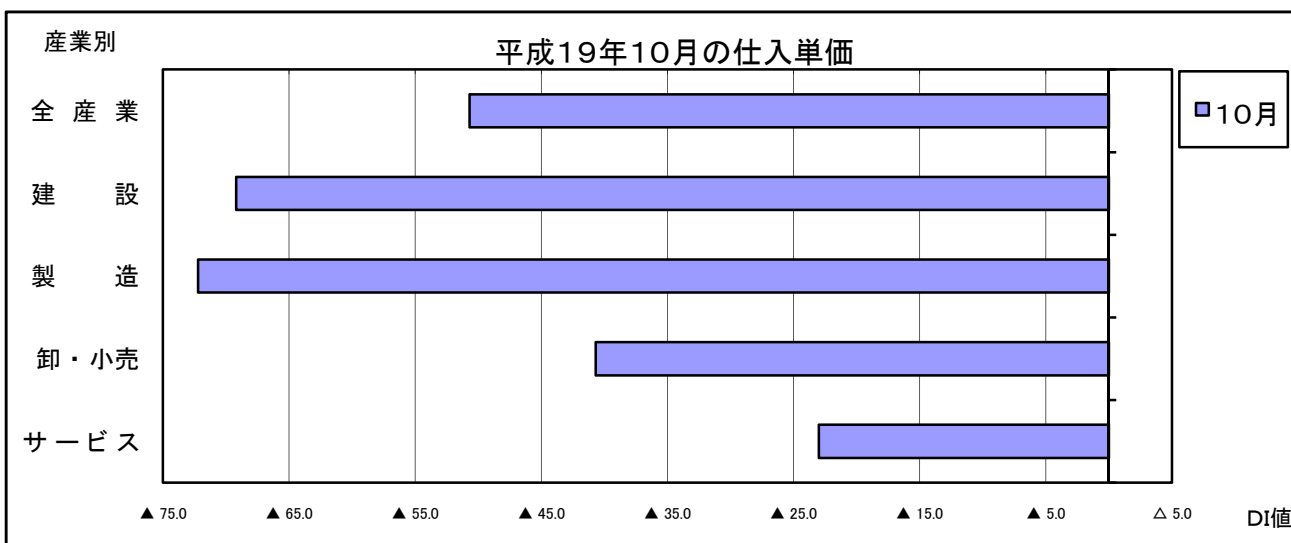
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲23.0(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.7(同▲29.6)、製造業▲72.2(同▲64.7)、建設業▲69.2(同▲64.2)であり、製造業は過去最低のポイントとなった。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲47.8(前月水準▲40.2)となり、マイナス幅が▲7.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲46.1(同▲57.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲66.6(同▲41.1)、サービス業▲38.4(同▲21.4)、卸小売業▲44.4(同▲40.7)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲25.5ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成19年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲38.8	▲42.0	▲40.0	▲45.8	▲47.2	▲50.7	▲47.8(▲40.2)
建設	▲40.0	▲50.0	▲53.8	▲64.2	▲64.2	▲69.2	▲46.1(▲57.1)
製造	▲50.0	▲61.1	▲50.0	▲66.6	▲64.7	▲72.2	▲66.6(▲41.1)
卸・小売	▲42.8	▲32.0	▲34.6	▲22.2	▲29.6	▲40.7	▲44.4(▲40.7)
サービス	▲9.0	▲25.0	▲23.0	▲46.1	▲42.8	▲23.0	▲38.4(▲21.4)



【平成19年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.6(前月水準△11.1)となり、プラス幅が△1.5ポイント拡大した。

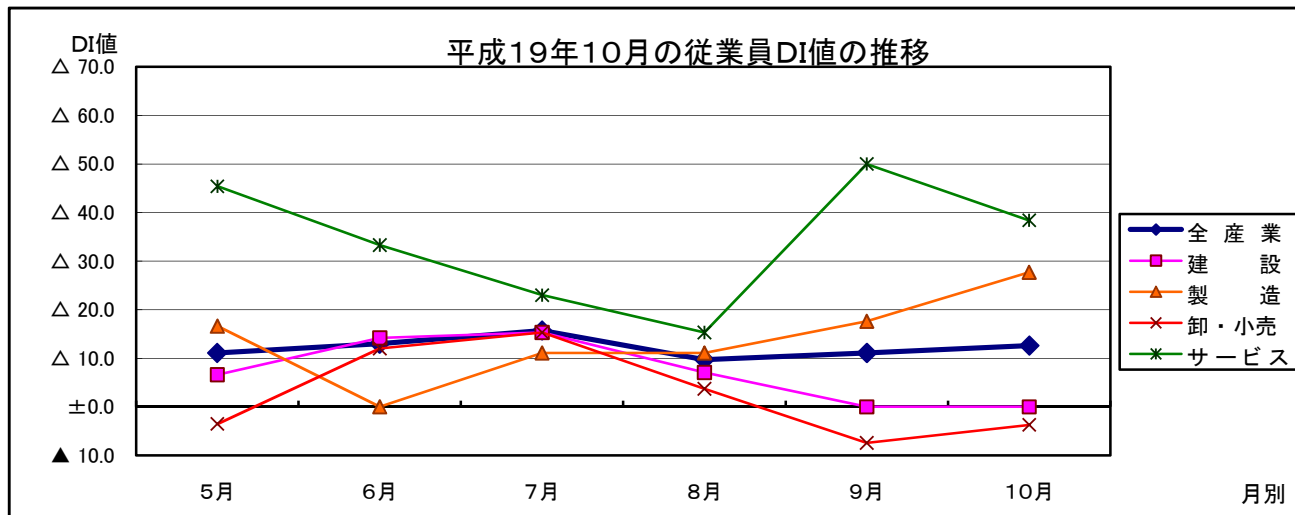
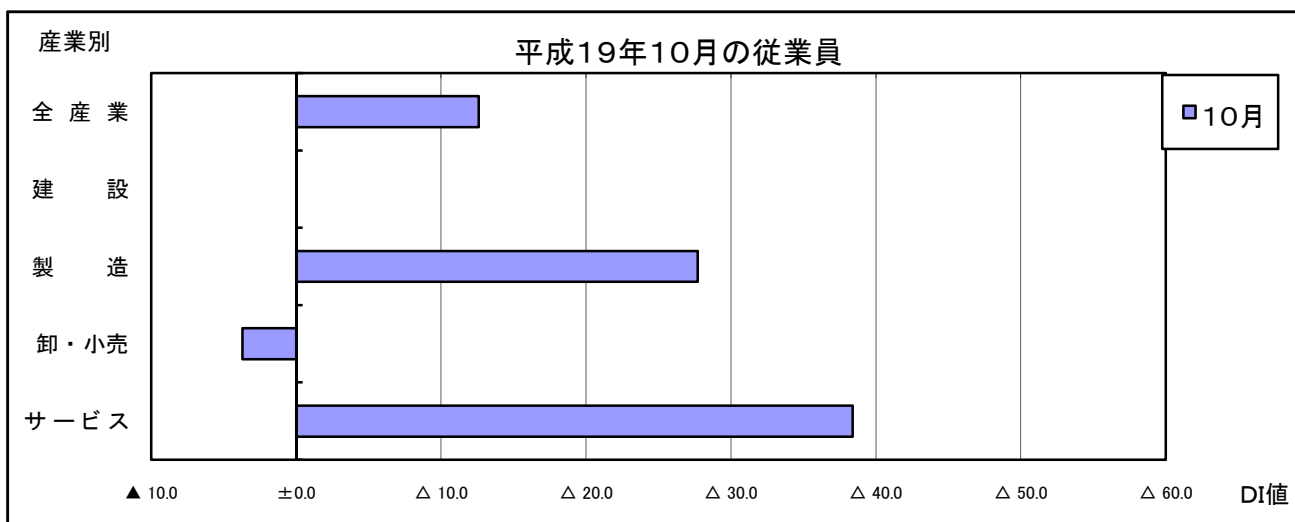
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△27.7(同△17.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲3.7(同▲7.4)である。変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△38.4(同△50.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.0(前月水準△12.5)となり、プラス幅が△1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△33.3(同△23.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲3.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△38.4(同△50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲7.6(同▲7.1)である。

平成19年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月(10月～12月)
全産業	△11.1	△13.0	△15.7	△9.7	△11.1	△12.6	△14.0(△12.5)
建設	△6.6	△14.2	△15.3	△7.1	±0.0	±0.0	▲7.6(▲7.1)
製造	△16.6	±0.0	△11.1	△11.1	△17.6	△27.7	△33.3(△23.5)
卸・小売	▲3.5	△12.0	△15.3	△3.7	▲7.4	▲3.7	±0.0(▲3.7)
サービス	△45.4	△33.3	△23.0	△15.3	△50.0	△38.4	△38.4(△50.0)



【平成19年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.2(前月水準▲12.5)となり、マイナス幅が△1.3ポイント縮小した。

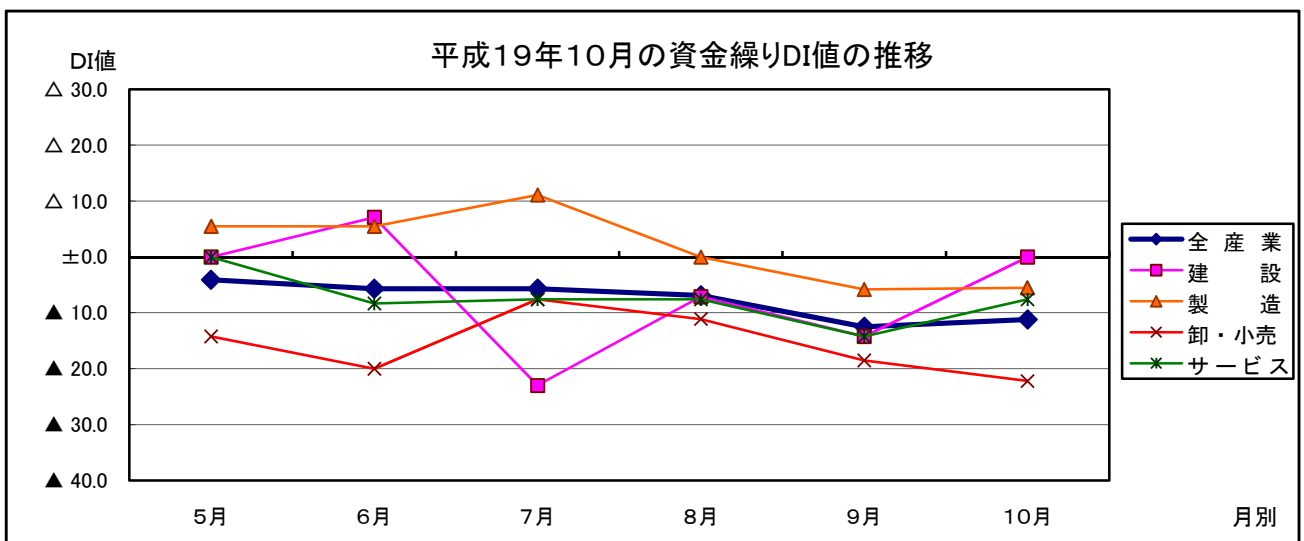
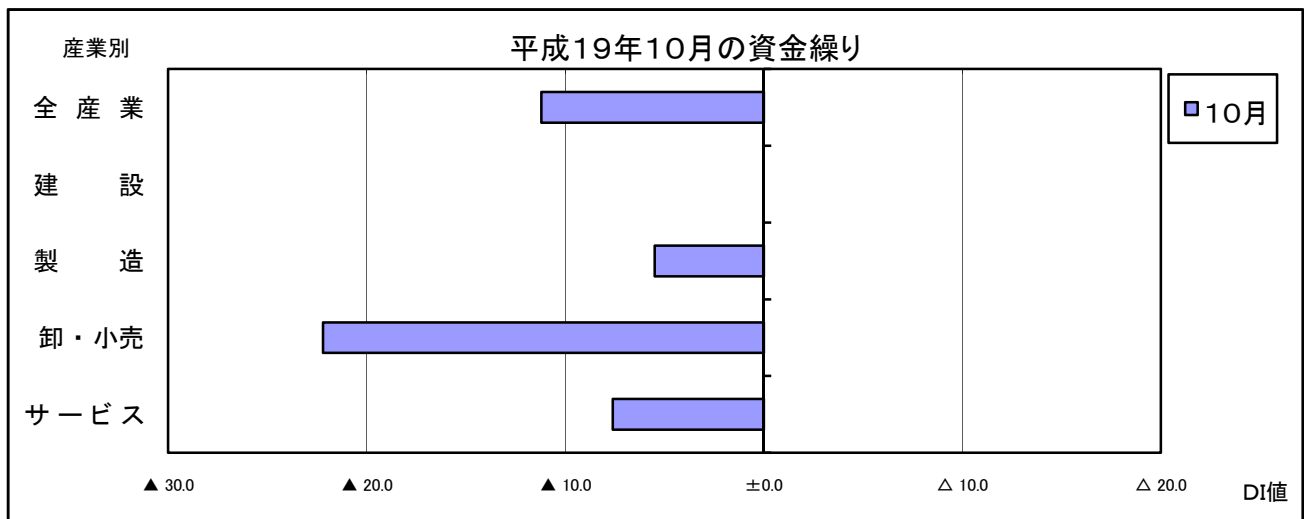
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲14.2)、サービス業▲7.6(同▲14.2)、製造業▲5.5(同▲5.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲22.2(同▲18.5)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が▲2.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲5.8)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同▲14.2)、卸小売業▲14.8(同▲7.4)である。

平成19年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲4.1	▲5.7	▲5.7	▲6.9	▲12.5	▲11.2	▲9.8(▲6.9)
建設	±0.0	△7.1	▲23.0	▲7.1	▲14.2	±0.0	±0.0(±0.0)
製造	△5.5	△5.5	△11.1	±0.0	▲5.8	▲5.5	▲5.5(▲5.8)
卸・小売	▲14.2	▲20.0	▲7.6	▲11.1	▲18.5	▲22.2	▲14.8(▲7.4)
サービス	±0.0	▲8.3	▲7.6	▲7.6	▲14.2	▲7.6	▲23.0(▲14.2)



【平成19年10月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	民間物件も出ているが、予算と積算との差異がほとんどである。仕入コストを引き下げるための仕入のルート改善が必要であると思う。何かで差別化を図っていかないと、今の建設業は生き残れなくなる。	・民間物件増加 ・不採算 ・仕入コスト ・差別化	一般土木建築工事業
	建築確認・構造計算見直し等で発注時期及び工期に著しく遅れが生じてガソリンなど燃料の値上げでより経費が増大している。お客に経費の値上げはあまり請求しづらい。	・建築確認申請 ・仕入コスト ・価格転嫁	一般土木建築工事業 土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	学校関係の工事が完成し、人の動きは落ち着いてきました。しかし、採算的には厳しいです。	・公共工事 ・不採算	板金・金物工事業
	材料(石油製品)が上がり気味です。	・仕入コスト	塗装工事業
製造	業界全体の売上は前年を若干上回る見込みです。材料高いなれど、製品の値上げ交渉。苦戦中なり。	・飲料業界好調 ・仕入コスト ・価格転嫁	清涼飲料製造業 紙製容器製造業
	地金高の影響か、ユーザーに買い控えの気配あり。	・仕入コスト ・買い控え	非鉄金属・同合金圧延業(抽伸、押出しを含む)
	暖冬のため、カイロへの影響が少なからずあるが、他で何とかカバーしている状況。	・天候の影響	その他の鉄鋼業
	エレベーター・エスカレーター事故及び大手メーカー鋼材強度不適また、建築基準法の強化・変更により確認申請が遅滞し、現場着工が遅れている。	・建築確認申請	その他の設備工事業
	鋳物外注加工先を探しているが、中々短納期対応してくれるところが少ない。	・外注先募集	その他の機械・同部分品製造業
	下期のスタート月ということか？今月は非常に好調に受注が推移している。しかし、来月以降については不透明な状況です。	・受注好調 ・先行き不透明	電子部品・デバイス製造業
卸小売	月初からゆったりとしたペースで推移しております。特に良くもなく、ひどく悪くもない状況です。年末を迎えることで好転に期待します。	・年末商戦	食料・飲料卸売業
	9月度は、天候の影響を受け、百貨店の主力商品であるファッション系の商品分野の売上は大きく前年を下回りました。10月度はその反動もあり、堅調に推移しています。	・秋冬商品 ・売上増加	百貨店
	店内改装中ですが、売上は変わっておりません。11月下旬に1階ベーカリーショップがオープンいたします。	・店舗改装 ・売上不変 ・テナント開店	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	最近の青果物では酷暑の影響が出てきたようで、野菜は入荷減・単価高の傾向。そのため、販売状況は低迷していますが、11月上旬より近郊野菜の出回り増で、安定も予想され、集荷販売に努力したい。果実は、みかん・りんごを中心に生産が増加。並びに、食味・品質が良好であります。ただ、小玉傾向であります。今後のお歳暮や、地域の活性化のため、地の利を生かした販売に全力投球していきます。	・天候の影響 ・野菜入荷減・単価高 ・果実生産増加 ・年末商戦	食料・飲料卸売業
	売上は前年同月と変わらず、客数若干増加。今月は人手も足りているが、今後も人手不足は続くと思う。年末に向けて、年賀状印刷やギフト等の需要があり、売上は増加する見込み。	・売上不変 ・人手不足 ・年末商戦	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	小麦粉等の材料値上げが大きいです。	・仕入コスト	菓子・パン小売業

【平成19年10月の業種別業界内トピックス】

	<p>学生衣料全般(ジャージ、Tシャツ等含む)値上がり。来春文具、事務用品、学習帳も値上げで仕入れ商品の手当て、運転資金等が難しい。商圈も柏、おおたかの森、ららぽーと、一部モラージュに集中傾向にある。交通法規の罰則強化で飲食店が厳しい。お酒の提供者が初めて厳しい罰金の処分を受けた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入コスト ・資金繰り ・大型店集中 ・飲酒運転 	その他の飲食料品小売業
	<p>原油価格の再上昇基調が始まり、LPガスも毎月過去最高値に達している。このような市況の中、2年間据え置けた価格を12月から転嫁せざるをえない状況になってきた。まさに心中は低迷期である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入コスト ・価格転嫁 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	<p>店頭の商品は冬物に変わったが、陽気が暖かく売れていない。温度ばかりでなく、TX沿線の大型SCの影響があるのかもしれない。パート従業員の確保が難しくなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋冬商品 ・天候の影響 ・大型店 ・人手不足 	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	<p>10月度は、先月末から気温が低下したこと、主力の婦人服を中心に秋物衣料が活発化、好調な出足となった。また、5日にはメインフロアである3階正面に2店舗がオープンし、売上高は更に伸びをみせた。しかし、3連休最終日は悪天候に見舞われ、昨年を大きく下回り、以降大きな伸びはなく、売上高は前年並みの推移となった。後半に掛けては、新店の告知を強化し、新店を中心に集客を図っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響 ・秋冬商品 ・テナント開店 ・売上横ばい 	各種商品小売業
サービス	<p>11月20日実施の千葉県理容フェスティバル、プラザハイアンで頑張りま</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント 	理容業
	<p>連休の中日はヒマでした。運動会の打ち上げで利用して下さるお客様が多く、ディナータイムの団体予約が増えた気がしました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・団体予約増加 	食堂・レストラン
	<p>宴会…宴会増加だが、会議・展示会不安 宿泊…Jリーグ宿泊あり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宴会増加 ・Jリーグ宿泊 	ホテル

【平成19年9月の多い景気キーワード】

◎仕入・コスト上昇

- ・ 民間物件も出ているが、予算と積算との差異がほとんどである。仕入コストを引き下げのための仕入のルート改善が必要であると思う。何かで差別化を図っていかないと、今の建設業は生き残れなくなる。
- ・ ガソリンなど燃料の値上げでより経費が増大している。お客に経費の値上げはあまり請求しづらい。
- ・ 材料(石油製品)が上がり気味です。
- ・ 材料高いけれど、製品の値上げ交渉。苦戦中なり。
- ・ 地金高の影響か、ユーザーに買い控えの気配あり。
- ・ 小麦粉等の材料値上げが大きいです。
学生衣料全般(ジャージ、Tシャツ等含む)値上がり。来春文具、事務用品、学習帳も値上げで仕入れ商品の手当て、運転資金等が難しい。商圈も柏、おたかの森、ららぽーと、一部モラージュに集中傾向にある。交通法規の罰則強化で飲食店が厳しい。お酒の提供者が初めて厳しい罰金の処分を原油価格の再上昇基調が始まり、LPガスも毎月過去最高値に達している。このような市況の中、2年間据え置けた価格を12月から転嫁せざるをえない状況になってきた。まさに心中は低迷期である。

◎秋冬商品・年末商戦

- ・ 月初からゆったりとしたペースで推移しております。特に良くもなく、ひどく悪
- ・ 9月度は、天候の影響を受け、百貨店の主力商品であるファッション系の商品分野の売上は大きく前年を下回りました。
10月度はその反動もあり、堅調に推移しています。
- ・ 売上は前年同月と変わらず、客数若干増加。今月は人手も足りているが、今後も人手不足は続くと思う。年末に向けて、年賀状印刷やギフト等の需要があり、売上は増加する見込み。
最近の青果物では酷暑の影響が出てきたようで、野菜は入荷減・単価高の傾向。そのため、販売状況は低迷していますが、11月上旬より近郊野菜の出回り増で、安定も予想され、集荷販売に努力したい。果実は、みかん・りんごを中心に生産が増加。並びに、食味・品質が良好であります。ただ、小玉傾向であります。今後のお歳暮や、地域の活性化のため、地の利を生かし
- ・ 店頭の商品は冬物に変わったが、陽気が暖かく売れていない。温度ばかりでなく、TX沿線の大型SCの影響があるのかもしれない。
パート従業員の確保が難しくなっている。
- ・ 10月度は、先月末から気温が低下したことから、主力の婦人服を中心に秋物衣料が活発化、好調な出足となった。また、5日にはメインフロアである3階正面に2店舗がオープンし、売上高は更に伸びをみせた。
しかし、3連休最終日は悪天候に見舞われ、昨年を大きく下回り、以降大きな伸びはなく、売上高は前年並みの推移となった。
後半に掛けては、新店の告知を強化し、新店を中心に集客を図っていく。



平成19年10月のCCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.5に対し、「CCI-LOBO」が▲34.9で、マイナス幅が12.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.2に対し、「CCI-LOBO」が▲27.8で、マイナス幅が16.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.3に対し、「CCI-LOBO」が▲33.5で、マイナス幅が8.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲50.7に対し、「CCI-LOBO」が▲35.9で、マイナス幅が14.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△12.6に対し、「CCI-LOBO」が▲0.3で、プラス幅が12.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.8で、マイナス幅が10.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。











平成19年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.5	 15.3	 5.5	 40.7	 15.3
CCI LOBO	 34.9	 47.2	 27.0	 33.8	 33.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.2	 38.4	 ±0.0	 11.1	 ±0.0
CCI LOBO	 27.8	 39.8	 19.0	 29.7	 24.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.3	 30.7	 22.2	 33.3	 7.6
CCI LOBO	 33.5	 46.3	 32.8	 30.6	 29.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 50.7	 69.2	 72.2	 40.7	 23.0
CCI LOBO	 35.9	 43.7	 50.2	 26.2	 31.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.6	 ±0.0	 27.7	 3.7	 38.4
CCI LOBO	 0.3	 15.0	 1.7	 5.3	 0.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.2	 ±0.0	 5.5	 22.2	 7.6
CCI LOBO	 21.8	 37.6	 18.0	 19.3	 18.2

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(10月の調査結果のポイント)

調査期間：平成19年10月22日～25日

調査対象：柏市内99事業所及び組合にヒアリング、回答数71

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	19.4	26.6	±0.0	32.1	9.0
6月	21.7	21.4	5.5	32.0	25.0
7月	27.1	38.4	5.5	34.6	30.7
8月	31.9	35.7	5.5	44.4	38.4
9月	20.8	21.4	5.8	40.7	±0.0
10月	22.5	15.3	5.5	40.7	15.3
見通し	12.6	15.3	5.5	22.2	15.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは再び悪化、仕入単価では製造業が調査以来初のマイナス7.0台

10月の全産業合計のD I値前年同月比ベース、以下同じは、一・一五前月水準20.8となり、マイナス幅が一・七ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業一五二二同、二二・四、製造業五五同、五八である。変らない業種は、卸小売業、四〇七同、四〇七である。マイナス幅が拡大した業種はサービス業、一五三同、±〇〇である。

【建設業】では、「民間物件も出ているが、予算と積算との差異がほとんどである」（土木建築工事）、「学校関係の工事が完成し、人の動きは落ち着いてきたが、採算的には厳しい」（板金工事）との声や、「ガソリンなど燃料の値上げで経費が増大。お客に経費の値上げは請求しづらい」（土木工事）といった仕入コスト上昇の声が寄せられた。また、「建築確認・構造計算見直し等で発注時期及び工期に著しく遅れが生じている」（土木建築工事）といった建築確認申請の影響に関する声も寄せられている。

【卸小売業】では、「九月度は天候の影響を受け、百貨店の主力商品であるファッション系の商品分野の売上は大きく前年を下回ったが、十月度はその反動もあり、堅調に推移」（百貨店）、「先月末から気温が低下したことから、主力の婦人服を中心に秋物衣料が活発化、好調な出足となり、五日には一店舗がオープンし、売上高は更に伸びをみせた」（各種商品小売）との秋冬商品好調の声や、「売上は前年同月と変わらず、客数若干増加」（コンビニエンスストア）、「店内改装中だが、売上不変、十一月下旬に一階ベアリーショップがオープン」（総合スーパー）といった声も寄せられている。しかし、「店頭の商品は冬物に変わったが、陽気が暖かく売れていない。温度ばかりでなく、T X沿線の大型S Cの影響があるかもしれない」（各種商品小売）といった大型店の影響の声や、「パート従業員の確保が難しくなっている」（各種商品小売）との人手不足の声が寄せられている。また、「小麦粉等の材料値上げが大きい」（菓子製造小売）といった仕入コスト上昇の声も多く寄せられた。その他、「月初からゆったりとしたペースで推移。特に良くも悪くも悪くもない状況。年末を迎えることで好転に期待」（食料卸売）といった年末商戦に関する声や、「青果物では酷暑の影響で、野菜は入荷減・単価高の傾向。販売状況は低迷しているが十一月下旬より近郊野菜の出回り増で安定も予想される。果実は、みかん・りんご

を中心に生産が増加」（青果卸売）とのコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「宴会増加だが、会議・展示会不安」リーグ宿泊あり」（ホテル）、「連休の中日はヒマでした。運動会の打ち上げで利用してくださるお客様が多く、ディナータイムの団体予約が増えた」（レストラン）との声が寄せられている。また、「十一月二十日、千葉調理容フエスティバル」（理容）といったイベント開催のコメントが寄せられている。

10月の景気キーワード

仕入・コスト上昇

引き続き各業種から、「材料（石油製品）が上がり気味」（塗装工事）、「小麦粉等の材料値上げが大きい」（菓子製造小売）といった仕入コスト上昇の声や、「ガソリンなど燃料の値上げで経費が増大。お客に経費の値上げは請求しづらい」（土木工事）、「原油価格の再上昇基調が始まり、L Pガスも毎月過去最高値に達している。据え置けた価格を十一月から転嫁せざるをえない状況」（燃料小売）といった仕入・コスト上昇に伴う価格転嫁の声の他に、「学生衣料全般値上がり。来春文具、事務用品、学習帳も値上げで仕入商品の手当り、運賃賃金等が難しい」（学生衣料）、「地金高の影響が、コナザーに買い控えの気配あり」（非鉄金

【製造業】では、「業界全体の売上は前年を若干上回る見込み」（飲料製造）、「下期のスタート月のせいか、今月は非常に好調に受注が推移」（電子部品製造）との好調の声も寄せられているが、「暖冬のためカイロへの影響が少なからずあるが、他で何とかカバーしている状況」（鉄粉製造）との声や、「材料は高いが、製品の値上げを交渉。苦戦中」（紙製容器製造）といった仕入コストの声も寄せられている。その他、「鋳物外注加工先を探しているが、中々短納期対応してくれるところが少ない」（包装・組立機械製造）との声や、「エレベーター・エスカレーター事故及び大手メーカー鋼材強度不適また、建築基準法の強化・変更により確認申請が遅滞し、現場着工が遅れている」（昇降機設計製造）といった新規外注・建築確認申請の影響に関する声も寄せられている。

【サービス業】では、「宴会増加だが、会議・展示会不安」リーグ宿泊あり」（ホテル）、「連休の中日はヒマでした。運動会の打ち上げで利用してくださるお客様が多く、ディナータイムの団体予約が増えた」（レストラン）との声が寄せられている。また、「十一月二十日、千葉調理容フエスティバル」（理容）といったイベント開催のコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「宴会増加だが、会議・展示会不安」リーグ宿泊あり」（ホテル）、「連休の中日はヒマでした。運動会の打ち上げで利用してくださるお客様が多く、ディナータイムの団体予約が増えた」（レストラン）との声が寄せられている。また、「十一月二十日、千葉調理容フエスティバル」（理容）といったイベント開催のコメントが寄せられている。

属・合金仕延）など「運賃賃金、買い控えといった影響の声や、「仕入コストを引き下げるための仕入のルートの改善が必要である」（土木建築工事）といった仕入コストの改善を望むコメントが寄せられている。

秋冬商品・年末商戦

卸小売業から、「九月度は天候の影響を受け、百貨店の主力商品であるファッション系の商品分野の売上は大きく前年を下回ったが、十月度はその反動もあり、堅調に推移」（百貨店）、「店頭の商品は冬物に変わったが、陽気が暖かく売れていない。温度ばかりでなく、T X沿線の大型S Cの影響があるかもしれない」（各種商品小売）といった秋冬商品の声や、「年末を迎えることで好転に期待」（食料卸売）、「今後のお歳暮や、地域の活性化のため、地の利を生かした販売に全力投球していく」（青果卸売）、「年末に向けて、年賀状印刷やギフト等の需要があり、売上は増加する見込み」（コンビニエンスストア）といった年末商戦に期待するコメントが多く寄せられた。

CCI・LOBBとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が一・一五に対し、「CCI・LOBB」が三・四九で、マイナス幅が一・一四ポイント小さい。「柏の景気」の方が一〇ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成19年10月18日～24日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況 売上、採算とも二カ月連続で悪化、仕入単価の上昇は八カ月連続

十月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(二三・六)よりマイナス幅が二・三ポイント拡大して三四・九となり、一カ月連続でマイナス幅が拡大した。産業別の業況DIは、製造でマイナス幅が縮小、小売で横ばいとなっているものの、他の三業種で拡大した。

【建設業】からは、「工・通・通信」関連の業種は好況(電気工事)との声がある一方、「公共・民間工事量」も減少しており、厳しい業況が続いている(建築工事)。「建築基準法改正に伴い、今後の着工件数のかなりの減少が予想される」(一般工事)との声も寄せられている。

【製造業】からは、「自動車部品」関連は受注件数が増加している(金属加工機械製造)との声がある一方、「仕入単価の上昇等、不安材料が多い」(製材木製品製造)、「競争による価格下落の影響を受け、厳しい見通し」(電子部品製造)との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「気温低下

の影響で、冬物商品の売上が増加した(繊維品卸売)との声がある一方、「業種を問わず低迷のまま推移」(各種商品卸売)、「相変わらず原材料等の値上げ要請で厳しい状況」(家具・建具等卸売)との声も寄せられている。

【小売業】からは、「衣料・寝具等の秋冬物の需要が増加傾向にある」(百貨店)との声がある一方、「仕入れ単価上昇の影響で、採算は厳しい見込み」(商店街)、「従業員が不足しており、人員確保が課題」(百貨店)との声も寄せられている。

【サービス業】からは、「晴天が続く、来客数も好調」(喫茶店)との声がある一方、「原油価格の高騰による仕入単価の上昇が、業界全体の景況を悪化させている」(自動車整備)、「売上不振が続く」(その他の一般飲食店)との声も寄せられている。

十月のキーワード

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が多く寄せられている。建設、製造からは、「受注の減少による価格競争の激化が資金繰りにも影響している」(帯広・一般工事)

「建築基準法の改正により工事着工に遅れが生じるなど、今後の影響が懸念される」(草津・一般工事)、「全体的に受注量減少のため売上高も減少し、先行きの見通しは厳しい状態」(加茂・金属加工機械製造)との声も寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも「年末年始に仕入単価がさらに上昇する見込み」(土佐清水・食料・飲料卸売)、「来客数売上とも減少傾向に歯止めがかからない」(久留米・商店街)、「食料品等の値上がりによる採算の悪化に加え、今後は灯油価格の上昇が懸念される」(土別・旅館)といったコメントが寄せられている。

仕入コスト上昇

また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「仕入単価の上昇を受注価格ではカバー出来ず、相対的に利益を圧迫している」(上越・電気工事)、「価格転嫁が難しい中印刷用紙の値上げが実行され、コストダウンが課題となっている」(若原沢・印刷)との声も寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「原油の高騰により値上がりする商品が多数出ているが、販売価格に反映できず、利益の減少につながっている」(臼杵・その他小売)、「昨年同月よりも売

上は増加しているが、原材料コストも上昇しているため、採算は昨年並」(春日部・そば・うどん店)といったコメントが寄せられている。

気温低下の影響

一方、九月までの残暑による悪影響と対照に、気温の低下による好影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「十月に入り、衣料品の売上が一気に増加。パット、アルバイト不足が続いている」(甲府・商店街)、「ようやく秋冬物衣料品が動き出した」(京都・商店街)、「温かい食品の売行きが好調」(古河・百貨店)、「気温の変化と共に、衣料品が回復傾向」(大川・その他小売)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲25.1	▲40.9	▲21.3	▲27.8	▲22.2	▲20.9
6月	▲29.5	▲46.0	▲23.4	▲39.4	▲26.5	▲24.5
7月	▲32.8	▲43.5	▲26.3	▲42.6	▲31.4	▲30.8
8月	▲32.0	▲44.3	▲23.5	▲48.4	▲31.1	▲27.9
9月	▲33.6	▲45.4	▲27.5	▲41.1	▲33.8	▲29.1
10月	▲34.9	▲47.2	▲27.0	▲44.3	▲33.8	▲33.0
見通し	▲29.8	▲46.5	▲23.9	▲32.5	▲29.3	▲24.9

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI